



ヤマセミ



オシドリ



ブッポウソウ

④市街地とその近郊（佐伯市街地及び城山、女島などの市街地周辺地域）

市街地では人の近くで生活するスズメやツバメ（夏鳥）、ムクドリ、ハシボソガラスなどが見られます。近くの林から市街地の公園や民家の庭にシジュウカラやメジロ、ヒヨドリなどの森林性の鳥も姿を見せます。メジロは黄緑色の体で目の回りの白いリングがよく目立ちます。林の中から人家の庭先まで現れ、人に親しまれている鳥であることから大分の県鳥になっており、佐伯市のシンボルの鳥にも指定されています。昆虫や木の実をエサとしますが、甘いものが好物でツバキやウメ、サクラの花の蜜もよく吸います。



スズメ



ツバメ



ムクドリ



ハシボソガラス



メジロ



シジュウカラ

市街地近郊の女島や小島、津志河内などの干拓地や農耕地では 1 年を通してホオジロやキジバト、ヒバリなどの身近な鳥が多く見られ、冬季にはツグミやアオジ、ミヤマガラスなどの冬鳥が越冬します。また春や秋の渡りのシーズンにはノゴマやノジコ、ノビタキなどの旅鳥が立ち寄り、エサの補給をしています。女島や小島、津志河内は頻りに珍しい鳥が出現するため、渡りのシーズンなどにはたくさんのバードウォッチャーが訪れて野鳥観察を楽しんでいます。



キジバト



ツグミ



アオジ



タゲリ



ノゴマ



ノビタキ



ギンムクドリ



ツメナガセキレイ



シラコバト

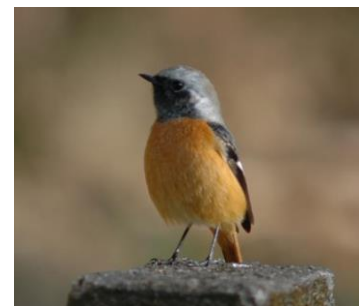
城山は市街地のすぐ近くにある自然豊かな森で、エナガやヤマガラ、メジロなどの森林性の鳥が1年中見られます。冬季にはシロハラやミヤマホオジロ、ジョウビタキなどの冬鳥の良好な越冬場所ともなっています。



シロハラ



ミヤマホオジロ



ジョウビタキ

⑤里地里山（大越、本匠、青山、宇目などの人家や田畑及びその周辺の山林）

佐伯市の自然環境の中で最も広い範囲を占める里地里山は、中小河川の水辺や水田・畑地の農耕地、神社林や人家近くの雑木林など自然環境が多様で多くの生き物が暮らす所です。水辺ではキセキレイやカワセミ、ヤマセミなどが生息し、農耕地ではスズメやムクドリ、アマサギ（夏鳥）、キジ、ミヤマガラス（冬鳥）などが見られます。神社の森ではアオバズク（夏鳥）やフクロウが営巣します。森林部では、ヤマガラやコゲラ、ウグイス、サシバ（夏鳥）、サンショウクイ（夏鳥）などが生息しています。



キジ



アマサギ



ミヤマガラス



アオバズク



コゲラ



サンショウクイ

⑥山地（彦岳、佩楯山、傾山、夏木山などの山岳地域）

標高の高い山地の森林には、ヒヨドリやエナガ、メジロなどの森林性の留鳥に加え、夏鳥のサンコウチョウ、オオルリ、センダイムシクイなどが見られます。

タカの仲間ではクマタカが周年生息しています。クマタカは山地の森林に生息する大型のタカで、森林生態系の頂点に位置する生物です。季節的な移動はせずに一年中同じ地域に留まり、翼を広げると1m50cmほどになります。林の中や草地などを飛びながら獲物を探したり、木の枝に止まって獲物の現れるのを待ったりして狩を行います。エサは、ノウサギやイタチなどの哺乳類やキジやヤマドリ、コジュケイ、ヒヨドリなどの鳥類が主です。現在、クマタカは繁殖率の低下やエサとなる生き物の減少などで、個体数が減少しており、絶滅が危惧されています。

傾山系には大分県レッドデータブック掲載種で絶滅が懸念されているホシガラスが生息しています。ホシガラスは祖母傾山系の標高1200m以上の林に生息し、ハトと同じくらいの大きさで全身黒褐色の地に白い斑



クマタカ

点が並んでいるカラスの仲間です。渡りをせずに祖母傾山系の標高の高い所に生息していますが、冬期にはエサを求めて標高の低い所に移動します。エサはヒメコマツやツガ、マツの実、昆虫や小鳥の卵やヒナなどを食べる雑食性です。木の実を岩かげや枯れ木のへこみなどに貯食する習性があり、食べ残された実が発芽して森林が広がっていく種子散布の役割を担っています。ホシガラスは祖母傾山系が日本での繁殖のほぼ南限であり、渡りをしないため地域個体群として生息地が孤立し生息個体数はかなり少なくなっています。



ホシガラス

(4) 佐伯市で確認された重要種

生息環境の悪化や個体数の減少で絶滅が懸念され、保護上の重要種とされている鳥類については、現地調査と文献調査から 67 種が確認されました。(佐伯市鳥類重要種一覧 参照)

環境省レッドリスト(環境省 RL)に掲載されているものはコウノトリやクロツラヘラサギなど 43 種、大分県レッドデータブック(大分県 RDB)掲載のものはクマタカやセイタカシギなど 61 種、国の天然記念物はコウノトリやコクガン、カラスバトなど 5 種、絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律(種の保存法)の希少野生動植物種に指定されているものはハヤブサやマナヅルなど 9 種となっています。これらの鳥類は生息環境の悪化や個体数の減少などで絶滅が心配されており、自然環境の重要性や生物多様性の必要性などの啓発や種と生息環境保全のための法整備などが重要です。



コウノトリ



セイタカシギ



マナヅル



コクガン



マガン



ハイタカ